

## 南ア月報

(2013年4月)

在南アフリカ日本国大使館

### 1. 内政

#### ●マンデラ元大統領、退院

6日、肺感染症で入院していたマンデラ元大統領は、体調が持続的かつ徐々に回復したことを受け退院した。3月27日にプレトリアの病院に入院して以来9日後の退院となった。今後は自宅にて手厚い治療を受けることになる。

29日午後、ズマ大統領、ラマポーザANC副総裁、ムベテANC全国委員長は急遽、元大統領を見舞い、その様子は国営テレビSABCで放映された。ズマ大統領は「元大統領と会話し握手をした。ご覧の通り元大統領は実に元気で安定している。」とコメントしたが、元大統領は肘掛けいすに腰掛け、頭は枕に支えられ足は毛布をかぶせられている状態で正面を見つめているのみ。映像からは、マンデラ元大統領が憶測されているような危篤状態でないことが確かめられたが、ツイッター上等では「元大統領のプライバシー侵害により、メディアを叩いた後で、ANCは明らかに病弱で厳しい状態の元大統領を侵害するようなビデオを流した」とのコメントが続々と寄せられた。

#### ●野党DA、2014年総選挙を見込みキャンペーン開始

13日、野党民主連合DAは“Know Your DA”と称したキャンペーンを開始した。同キャンペーンは、アパルトヘイトからの解放に向けたDA指導者による貢献を多くの南ア人に知ってもらおうというのが目的。白人政党としてのレッテルを払拭し真のDAの姿を知ってもらいたいという願いが込められており、2014年の総選挙を見据えた動きが早くも活発化している。

#### ●情報保護法案、下院通過

25日、情報保護法案が下院で賛成189票、反対74票、棄権1票の投票を受け、法案として通過した。野党DAは投票における不手際を指摘しシスル下院議長に書簡を送り、再度投票を行うよう要請している。情報保護法には野党DAを始め、Right2Knowなどの多くの市民社会団体、労働組合COSATUなどがその制定をめぐり異議を唱えている。

#### ●労働組合COSATU、内紛激化

労働組合COSATUでは、バビ事務局長がBraamfonteinに位置するCOSATUの建物を市場価値以下の価格で売却したことの是非をめぐり、内部論争が広がり分裂の危機が深まっている。食品関連労働組合FAWUは、COSATU内で持ち上がっている問題を処理するため特別会議開催を提起した。これにより5月27日から3日間の協議で問題を解決することが決定した。COSATUでは南ア金属労働者組合(NUMSA)に代表されるバビ事務局長支持派と全国労働鉱山組合(NUM)に代表される反バビ派に分かれ、また、政府が提唱した国家開発計画の是非をめぐり、組合内分裂が進んでいる。

## 2. 外交

### ●ズマ大統領の中部アフリカ諸国経済共同体（CEEAC）臨時首脳会議出席

3日、ズマ大統領は、チャドで開催された、中央アフリカに関する中部アフリカ諸国経済共同体（CEEAC）臨時首脳会議に出席するため、ンジャメナを訪問した。今次首脳会議は、会合の10日前に中央アフリカで発生したクーデターへの対応を協議するため、デビー・チャド大統領（CEEAC現議長）の呼び掛けにより開催された。会議では、国際社会から認められていない中央アフリカへの新体制への対応について議論が交わされた。ズマ大統領は、18日にも、同地で開催されたCEEAC臨時首脳会議に出席し、域内の首脳等と中央アフリカ情勢について議論を行った。

### ●ズマ大統領のケニヤッタ・新ケニア大統領就任式出席

9日、ズマ大統領は、ケニヤッタ新ケニア大統領の就任式に参加するため、ナイロビを訪問した。同就任式にはアフリカ諸国から15名の首脳が出席したほか、BRICS諸国から政府高官等が出席した。ケニヤッタ大統領は就任演説において、アフリカ諸国との連携強化を約束し、内政については、母子保健、教育、脆弱層支援、土地問題、経済政策、環境問題など幅広い課題について言及した。

### ●ズマ大統領の第4回SACU首脳会合出席

12日、ズマ大統領は、ボツワナで開催された第4回SACU首脳会合に出席するため、ハバロネを訪問した。今次会合には、SACU加盟5カ国の首脳が参加し、SACUの取り組むプログラムの進捗状況等に関し協議が行われた。

### ●ズマ大統領のアルジェリア及びナイジェリア訪問

15日及び16日、ズマ大統領はアルジェリア及びナイジェリアを各々訪問し、ブーテフリカ・アルジェリア大統領、ジョナサン・ナイジェリア大統領と会談を行った。ブーテフリカ・アルジェリア大統領との会談では、政治経済分野における南ア・アルジェリア関係の強化、域内及び国際課題に対する協議等が行われ、南ア・アルジェリア二国間委員会の枠組の下で、外交、政治、経済関係の強化に努める約束が再確認された。ジョナサン・ナイジェリア大統領との会談では、良好な二国間関係が再確認され、5月にジョナサン・ナイジェリア大統領が南アを公式訪問することが確約された。両大統領との会談では、中央アフリカ情勢を始めとするアフリカの安全保障についても議論が交わされた。

### ●南ア・レソト外相会談

18日、マシャバネ国際関係・協力大臣は、南アを訪問中のツェコア・レソト外務大臣と二国間会談を行った。両外相は、合同二国間委員会のための協力について議論を行い、レソト・ハイランドウォータープロジェクトや貿易、観光促進、域内の安全保障問題等について意見を交わした。

### ●南ア・ドイツ外相会談

29日、マシャバネ国際関係・協力大臣は、南アを訪問中のヴェスターヴェレ・ドイツ外務大臣と二国間会談を行った。両外相は、二国間及び多国間の問題について広範囲にわたる協議を行い、「戦略的パートナーシップ」を再確認した。ドイツは、南アを経済・政治に於ける世界で最も重要なパートナーであると位置づけ、アフリカの経済統合を推し進める上で一翼を担いたいとしている。

### **3. 経済**

#### **<経済指標>**

##### **●経済成長**

4月に発行されたIMFの『世界経済の見通し（World Economic Outlook 2013）』最新版でIMFは来年度の南アの経済成長予想を4.1%から3.3%へと引き下げ、財務省の3.5%、南ア準備銀行の3.7%という予想に接近した数値となった。4百万人以上いると試算されている失業者の雇用問題の解決には年率5%のGDP成長率が必要である。南アの成長伸び率が鈍化する一方で、サハラ以南アフリカ全体の経済成長率は今年5.6%、来年6.1%となる見込み。

##### **●インフレ**

3月の消費者物価指数（CPI）は2月と同様の5.9%であり、依然として南ア準備銀行が定めた3%から6%の数値目標の範囲内となっていることが、南ア統計局より明らかになった。これに対し、南ア大手Nedbankのエコノミストは今年及び来年の第2四半期あたりまで金利水準は維持されるであろうと述べた。

##### **●自動車販売**

南ア自動車製造業協会（Naamsa）によると、3月の自動車販売台数は54,946台と対前年同月比で2%減となった。今年3月の新型乗用車販売台数は昨年3月の38,996台から37,596台へと3.6%減となっている。Naamsa理事長は、今年の3月は昨年の同月より販売日数が2日少ないため販売台数の微減を招いたと分析している。自動車部門においては、4月からの炭素税増税やランド安が自動車取引価格の上昇を導くとの見通しがある。

##### **●景況感**

南アフリカ商工会（SACCI）の景況感指数（BCI）は、1月に94、2月に93であった数値が3月には90.4となり、2000年4月に89となって以来の最低数値となった。また南ア経済研究所（BER）の調査によると、2013年第1四半期（1月～3月）の消費者信頼感指数（CCI）は昨年第4四半期の-3から-7へ減少、9年ぶりの低数値を記録している。南ア銀行大手First National Bankのチーフエコノミストは、2008年以降続いている世界的な金融危機の中で、消費者の家計や南ア経済に対する信頼感が悪化していると分析している。

#### **<出来事>**

##### **●産業政策**

デイビス貿易産業大臣は経済の活性化、技術革新、貧困の削減に重点が置かれた産業政策行動計画（IPAP）第五改正版を公表した。これらの目標を達成するためには、鉱業分野における高付加価値化の向上やBRICS加盟の機会を活用した新輸出市場の開拓が必要である。同氏は、IPAPは南アにおける消費主導型経済成長を転換する行動計画であると述べた。

##### **●鉱物部門**

南アの金融サービスグループCediz Corporate Solutionsの鉱物部門部長は、鉱物部門はこれまで以上に価格下落への耐性が脆弱であり、下落がそのまま継続するならば鉱業への影響は甚大であると述べた。南アのシンクタンクExecutive Research Associates（ERA）社の報告書『アフリカの鉱業における中国の挑戦』によると、中国企業は南アの鉱業部門への参入機会を検討中であり、2000年のgo-out-and-buy戦略が現出して以降、中国企業の

南ア鉱業部門訪問数が急増している。

#### ●原子力

ギガバ公共企業大臣は、国家原子力エネルギー執行調整委員会は 2018 年にエスコムによる既存の主要電力供給計画が失効する前に代替策を見出す必要があるため、原子力発電所への将来的投資の是非につき本年中に決定する予定であると述べた。同大臣は右決定のための議論は環境とコスト面において困難であると述べた。また国家計画委員会は、原子力発電の導入は遅延すべきであり、停電を防ぐために代替として新ガス発電能力へのコミッショニングを早急にすべきとした。

#### ●労働賃金交渉

南アエコノミスト社の経済評論家は南アにおける潜在的ストライキに警鐘を鳴らした。金属労働者組合（NUMSA）事務局長は自動車組み立て産業、タイヤ産業、鉄鋼業及び金属製造業の関連業界に対し、20%の賃上げ交渉を戦略的に実行する準備ができていると述べた。一方で、駐南ア ILO 事務局長は、急激な賃上げは企業の成長を抑制し、不必要な人員削減を招くため 20%の賃金増は困難であるとの見方を示した。

### 4. 広報・文化

#### ●日本映画上映（第7回）

20 日、プレトリア大学ビジネススクール（GIBS）において、大使館と日本研究センターが共同で行う日本映画上映の第7回目が行われた。今回は、昨年 12 月に死去した歌舞伎俳優 18 代目中村勘三郎氏が出演し、「東海道中膝栗毛」で馴染みのある弥次さん、喜多さんの珍道中を映画化した「やじきた道中てれすこ」が上映された。次回は 7 月 20 日に沖田修一監督の「南極料理人」の上映が予定されている。

### 5. 警備・治安

#### ●邦人強盗被害と国家警察の検挙内容改竄事案

今月、ヨハネスブルグ及びダーバンで、邦人被害の強盗事件が相次いで 2 件発生した。ヨハネスブルグの事案では、在留邦人が起床後に勝手口から庭先へ出ようとした際、すでに敷地に入り込んでいた強盗らに家屋内に侵入され、現金を奪われた。ダーバンでは、出張者が路上を歩行中、犯人らに首を絞められ所持品を奪われているが、犯行時に被害者が抵抗を示したところ、犯人に腕を噛み付かれ負傷を負っている。

昨年発表の南ア国家警察の犯罪統計によれば、凶器使用の強盗事件はここ数年減少傾向にあると示されているが、邦人被害は昨年から少なくとも 13 件は報告されており、対邦人に関しては治安回復の兆しは見られない。

また、報道によると、最新の国家警察の検挙統計を算出するに当たり、警察活動の活発性をアピールするため、軽微犯罪の検挙件数を強盗等の重要犯罪の犯人検挙数に加算していたことが公になり、警察幹部らが国会議員に非難されている。